

さくらやま便り

No.333号 2022年（令和4年）6月15日



珍しい出来事

巻頭文

施設長 村本英邦



いよいよ梅雨の季節がやって参りました。皆様お元気ですか。

この時期から夏の間は、日本列島が自然の厳しさにさらされる危険性が高まります。いわゆる大雨や洪水による自然災害です。夏特有の自然災害は、地球温暖化の影響を受けて、ここ数年で頻繁に起きるようになった印象を受けます。気象庁では、特に大雨による被害を少しでも軽減するために、前もって情報を発信し災害に備えるように注意を喚起しています。

さて、自然界の話といえば、今回、皆様にお伝えしたいことがあります。「ミツバチ」のことです。いまシヤロームでは、栄養課の小寺課長と営繕のミゲル主任が雨の日も風の日も一生懸命にミツバチの世話をしていますが、その甲斐あって今年も蜂蜜を採ることが出来ました。あと数回は採蜜ができるだろうと思っていますが、今年には珍しいことがありました。

6月に入ってすぐの事です。小寺課長が「ビックリすることが起きましたよ」と急ぎこんでこられたのです。よくよく話を聞いてみますと、養蜂場の近くの小屋に、見慣れない蜂の塊があるということです。はじめは飼っている西洋ミツバチが分蜂したのかと思ったのですが、実はこの蜂の群れは西洋ミツバチではなく、日本ミツバチの群れだったのです。

これがどういうことかと言いますと、実は日本ミツバチは西洋ミツバチと違って基本的に売買されることがなく、手に入れるのが困難でとても珍しいハチなのだそうです。捕獲するには「自然入居」と「強制捕獲」の二つのパターンがあって、「自然入居」は巣を飛び出した（分蜂した）群れに新しい巣の場所として選んでもらうことです。それに対して「強制捕獲」は引越越し途中の群れが一時的に集合している場所を見つけて、強制的に

巣箱に入れてしまうことです。しかし、これは慣れない人が探して簡単に見付けられるようなものではないので、ほとんど可能性は無いようです。

つまり、一般的に日本ミツバチはたまたま群れがその場所を選んでくれるのを待つしかない、言わば宝くじに当たるような、そのくらい珍しい事なのです。それだけ貴重な存在ですので当然、日本ミツバチが集めて来た蜜は高価で、養蜂界では、日本ミツバチの集めた蜜のことを「幻の蜜」と呼ぶほどです。

ですから、今回の出来事は蜂のサマージャンボ宝くじに当たったようなもので、小寺課長が息を切らせて飛んでくるのも無理はありません。

いまは様子見ですが、まずは、私達のところに来てくれた群れがそのまま居ついてくれることが大切です。運よく居ついてくれたら、次は蜂を増やすことに専念し、それから越冬の準備です。来春の採蜜に向けて試行錯誤の毎日が続きます。小寺課長の話では、今いる西洋ミツバチの近くに置いておくと、日本ミツバチの集めた蜜が「盗蜜」されることもあり、そうならないように適切な場所を探さなくてはいけないそうです。これは決して西洋ミツバチが「悪者」と言うことではなく、「適者生存」という自然界の摂理なのでしょう。

みなさん？ この日本ミツバチ到来騒動、今後どうなっていくか楽しみですね。でも、上手くいっても、皆様にご提供できる量の蜜が採れるのは暫く先になりそうです。小寺課長とミゲル主任は「幻の蜂蜜」をぜひシヤローム桜山の皆様にお届けできるように頑張ると意気込んでいました。さてどうなるでしょうか。期待して待ちたいと思います。

楽しい話が長く続きますように。皆様のご健康を祈りつつ。



生活相談員から

ケアハウス主任 遠藤裕之

1. まもなく夏至を迎えます。脱水や熱中症を予防するため、低カロリーの水を補水液を用意しました。有料にはなりますが、ご心配な時は事務室にお声がけください。
しばらくしましたら、笹を飾ります。七夕のお願いごとを短冊に書いてみませんか。

2. フロア別懇談会を開催します

開催日 4日(月)・・・1階入居者
5日(火)・・・2階入居者
6日(水)・・・3階入居者
時間 午後2時より
場所 レストラン

3. 新入居者様のご紹介

308号室 赤松 一二三様

6月1日付で入居されました。皆様、どうぞよろしくお願います。

4. 7月の行事予定

・モロコシと枝豆の日(3日 日曜日)

・ピアノ&リコーダーコンサート(24日 日曜日)

5. 第26回参議院議員選挙

6月22日公示・7月10日に投票が予定されています。シャローム桜山で不在者投票ができるように調整中です。詳細が分かりましたら、改めてご案内いたします。

6. ゴミの分別について

ゴミの分別にご協力頂きありがとうございます。これから臭いの気になる季節になります。生ゴミはできるだけ水分を切り、ビニール袋に入れてお出しください。また缶・ビン・ペットボトルは、すずいでお出しください。

7. お風呂の照明について

経年によってカバーが破損してましたので、新しい照明(LEDライト)に取替えました。

栄養課から

管理栄養士 奥村あみ

暑い季節の水分補給

今年も梅雨の時期を迎えました。肌にまとわりつくジメジメとした感触が不快に感じますが、この時期、特に気をつけたいことに「脱水症予防」があります。毎年話題になるこの脱水症は、命の危険に直結しますので、それを予防することは大切なことですね。さて、消防庁の発表によりますと、2021年5月から9月までの熱中症による救急搬送者数は、全国で約4万7千8百人で一昨年より約1万3千人ほど増えたようです。

毎年、日本列島は猛暑続きで気温が上昇し、「避暑地」はいつたどこに消えたのだと、その言葉さえも忘れてしまいうるそうです。

このように、毎年話題になる「熱中症」が何よりも怖いのは、気づかないうちに体内の水分が失われていくからです。そもそも人間の身体は殆どが水分ですので、発汗によって体内の水分量のバランスが崩れることで、体調は一気に悪化してしまいます。熱中症の症状をよく理解してこれから迎える夏の時期を元気に乗り越えましょう。

【熱中症の症状】

- ① 軽度 めまい、立ち眩み、手足の痺れ等
- ② 中度 吐き気、嘔吐、体のだるさ等
- ③ 重度 発熱、意識喪失、痙攣、歩行障害等

【対処法】

適切な初期対応が求められます。まずは涼しい場所に移って身体を冷やし、水分と塩分を補給します(事務所に用意してあるOS1やアクアソリタは最適です)。吐き気が強く、嘔吐などがある場合は急を要しますので、すぐに周囲に声をかけてください。

【熱中症の予防】

熱中症は、主に「環境」、「からだ」、「行動」の3つの要因によって引き起こされると言われています。気温や湿度を考えずに激しい運動や労働をしていると、発熱と同時に体温が上昇し、身体が上手に対応できなくなって熱中症を引き起こすわけですが、これらを適切にコントロールすることが予防の大切なポイントです。

厚生労働省は、まず、室内では扇風機やエアコンで室温を適切に管理し、屋外では日傘や帽子を着用してこまめな休憩を心がけるように勧めます。もちろん、通気性がよく、汗をよく吸収し乾きやすい服装を選ぶことも大切です。余裕があれば保冷剤や水、身体を冷やすための冷たいタオルなどがあるとなお良いと思います。

いずれにしても、暑さを避けて常に自分の身を守るための準備をすることが大切です。繰り返しになりますが、室内でも、屋外でも、のどの渴きを感じなくても、こまめな水分と塩分の補給を心がけ、今から暑さに耐えられる身体づくりをしていきましょう。



6月の誕生者

25日 川合 昭 様

29日 佐藤 幸子 様

お誕生日、おめでとうございます。

お健やかな毎日をお祈り致します。

